環境省 脱炭素型ライフスタイル・イノベーション シンポジウム



2020年3月7日 Climate Youth Japan

Climate Youth Japanについて

Climate Youth Japan

- ❖2010年に、気候変動枠組 条約締約国会議(COP)に 参加した日本青年によって 設立
- ❖全国各地の学生、 若手社会人約30名が所属



- ❖ 設立より毎年メンバーをCOP派遣
- > 世界各地の若者との連携

❖2017年度より、 環境省との意見交換会に出席



弊団体からの紹介



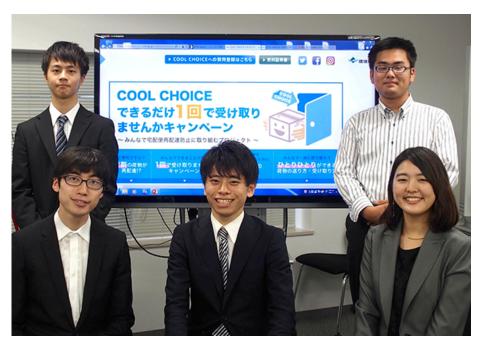
❖COOL CHOICE 低炭素物流の 学生向け普及啓発、アイデア開発プロジェクト

◆ecoTAPiプロジェクト

(Eco-friendly + Tapioca(Bubble) Tea)

1.COOL CHOICE 低炭素物流の 学生向け普及啓発、アイデア開発プロジェクト

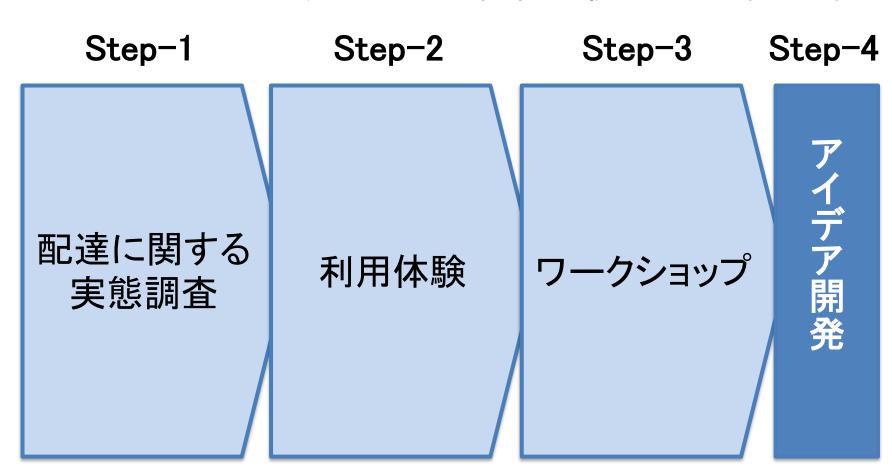
2018年度参画



「アイデア開発プロジェクト」の背景と流れ

宅配便の再配達を防ぐ施策を企画

- 一人暮らしが多く、ECサイト利用率が高い
- ▶ 再配達になりやすい 学生・若者の視点から考える。



配達に関する実態調査

- ❖調査概要
- 調査期間:2018年6月23日~7月24日
- 回収数: 学生 470名、社会人 91名

- ❖結果概要
- 1回で受け取れなかった理由の多くは、「配達が来る のを知っていたが用事で留守にした」
- 自宅以外の受取場所について、「コンビニ」の認知度 が高い。実際に受け取った場所は、学生では「コンビニ」、社会人では「宅配会社の営業所」が最も多い。

利用体験

- ❖概要
- 2018年8~9月に、「企業による宅配便管理サービス」や 「コンビニ受け取り」などの再配達防止サービスを体験
- ❖ 感想と提案
- アプリ利用は簡単(日時指定やLINE連動)
- > 運送事業者で統一してほしい
- ・「はこぽす」や「PUDO」も在宅不要で便利
- ➤ 使えるECサイトを増やしてほしい



時間や都合にあわせられる「コンビニ受取」は便利

ワークショップについて

- ❖概要
- 日時:2018年9月28日(金)
- 参加者:学生 16名



❖提案

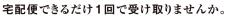
- 利便性が高いコンビニ受け取りの利用を促進したい
- 商品を購入するECサイトで周知すべき
- 不在連絡票の中で周知し、再発を防止する
- 1回で受け取ることにインセンティブをつける
- ゲーム性のあるキャンペーン

アイデア マンガによる普及啓発

若者に人気のマンガを活用し"再配達防止、を呼び かける。環境省HPにて掲載。事業者へのリンクや、ス マホで読むことを意識し、1コマ+台詞で構成。







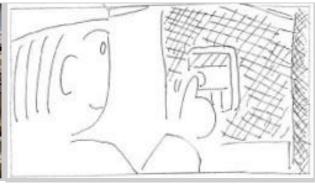




アイデア 動画による普及啓発

コンビニ受け取りや宅配ボックス/宅配ロッカー受け取りなど、自宅以外での受け取り方法や、物流のプロセスについての認知度を、ユーモアを交えた動画で高める。











「お荷物はコンビニや職場、 宅配ロッカーでも受け取れます。」



2. ecoTAPi プロジェクト

= Eco-friendly + Tapioca(Bubble) Tea

2019年度より開始

プラスチックを取り巻く背景

- 大量生産、大量消費、大量廃棄の社会から 資源循環型社会への転換
- 日本では 一人当たりが排出するワンウェイの 容器包装廃棄量量は世界2位
- 海洋プラスチック問題 『プラスチック資源循環戦略』より



- ワンウェイの容器包装・製品の使用の削減
- 使い捨て型ライフスタイルからの転換



第3次タピオカブーム

インスタ映え ティーンのアイコン タピオカブーム



https://front-row.jp/_ct/17267205

ポイ捨て問題 モラル ストロー

> 使い捨て容器 持続的発展



https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1908/09/news120.html

プロジェクトのゴール

- ●タピオカでのリユーザブルカップ普及
- ●タピオカの購買層である若い女性のタピオカドリンクの リユーザブルカップ利用をきっかけとしたプラスチック ゴミ問題に対する意識の向上







若い世代が中心となり、

タピオカのプラスチック問題を解決することが、 幅広い世代へインパクトを与えることに繋がるはず!

プロジェクトの概要とスキーム

問題調査

情報発信 フィードバック

調査 企業に対する取材



SNS・記事シェア ワークショップ







ボトル開発 使いやすい環境づくり

企業や地域との連携



全体のまとめ

脱炭素化のライフスタイルへの大規模な転換を実現するには、個人や家庭が利用する化石燃料由来のエネルギーや資源の消費を削減することが必要



若い世代だからこそできることは?

高度経済成長以降の既存のライフスタイルにとらわれることなく、モノや情報に溢れている現状において 若者が新しい価値観をアップデートしていく